

「空き地学会」とは

街を歩いているときふと出会う不思議な雰囲気のある場所。

それは、例えば水の入ったペットボトルが所狭しと並んでいたり、アスファルトの隙間から珍しい植物が生えていたり、家の通りに面する窓際をその家主の奇妙な作品やインテリアで飾られていたりするような、ふと気になってしまうまちの空間である。

「空き地学会」はそんな不思議な雰囲気をまとめて現れる「まちの空き地」に注目し、空き地をめぐる物語を想像し、楽しむ会である。我々は、この行為は日常の中に潜む非日常や美をめぐる冒険の入り口であると考えている。

2019年10月6日

いさざ会館 用務員
ご近所大学学長 空き地学会初代会長
浦岡 雄介

● ポエム

空き地。

何もないけど何かある。

空。

色即是空。

全ては空にもどる。

そして「空」き地が「ある」という矛盾。

「ない」という存在と出会う。

どうしても気になってしまう、この切実な気持ちはどこからくるのだろう。

「ない」場所を観察しようとする詩的な体験。

空即是色。

観察することでその場所に物語が生まれる。

2019年10月6日 空き地学会

●コラム

空き地にまつわる植物物語

「桐（キリ）」

幼木の葉っぱが大きく、数年で目覚ましく成長する。毎年6月ごろになると空き地などで大きな葉をつけとても目立つ。葉にさわると細かい毛が密集して生えており、ふさふさととても肌触りがよい。かつては女の子が生まれると庭に桐を植え、嫁入りの際に筆筒に加工して持たせたらしい。

しかしながら現在、空き地にはえる桐はその成長速度ゆえ嫌われ、毎年切り倒される。私はこの桐を見ると「ああ、もうそんな季節か」と感慨深くなるのだ。

桐の生えるポイントを押さえておくと、毎年株から大きく成長した姿を楽しむことができる。

みなさんのマイ桐はどこですか？



●空き地鑑賞のポイント

① 地面

新しい空き地ほど地面がむき出しになっている。奇妙な土地のかたちからはその土地にまつわる歴史がわかることがある（ex.昔の不動産事情や埋め立ての跡など）。またその土地が持っていたもともとの起伏からは土地に合わせた人の暮らしが見えることも。落ちているものからかつての生活感を感じることもあるだろう。

② 植物

空き地には特に成長しやすい植物が生える。特にイネ科やセイタカアワダチソウなどよくみられる雑草が生える。しかしながら、壊れたコンクリートの隙間など建物の痕跡から成長する様はいじらしさを感じ愛着がわく。

③ 風景

建物がなくなることにより、新しい風景が誕生する。たいてい建物の裏手があらわになることが多く、それを鑑賞する少しの罪悪感とともに、新鮮な自分だけの風景・空間を見つけることができる。また、建物が織りなすさまじさびれ具合のコントラストがまさに抽象画を鑑賞するかのごとく感じることがある。

④ 家の跡

とくに古い町並みを残す場所や長屋がある場所で見られる、空き地になることで隣家との密接した境界面あらわになった場所のことを言う。この行為自体は人為的だがそのカタチはだれにも予見されず、構造上仕方なく生まれた、純粹に出来上がったカタチである。これは一種の「風景」であると我々はとらえている。しかし軟弱な部分なので、トタンや簡易的なパネルを貼ってあることが多い。多くは下の構造を想起させるが、持ち主の意匠が凝らされる場合もある。

⑤ 持ち主の痕跡

空き地といえどそこは誰かの所有物である。そこには入らないように、またはその場所を保存しようとしたり立ち入らないように工夫を凝らしたりしている場合がある。しかしながらたいてい年月がたっており、そのどうしようもなさがいじらしく感じ、愛着がわく。また注視し、観察し続けると意匠が変わっている場合があり、それは自らの偉大な気づきとなるだろう。

*今回のワークショップはご案内する場所について以上のポイントを踏まえながら空き地をご鑑賞ください。いつも以上に空き地が立体的に、物語性を帯びて見えてくるはずです。また、案内人も気づいていない面白さを発見した場合は遠慮なくご意見ください。



www.isazakaikan.com/akichi-gakkai

●ワークシート

今回案内した中で気になった空き地について教えてください。

① 気になったポイント

② なぜ気になったかその理由を教えてください。

③ 今後その空き地はどのような未来をたどると思いますか。

④ 今回のワークショップに関してご意見ございましたらお書きください。

写真の送り先 artspaceisaza@gmail.com